

小學修身鑑

平井參編著

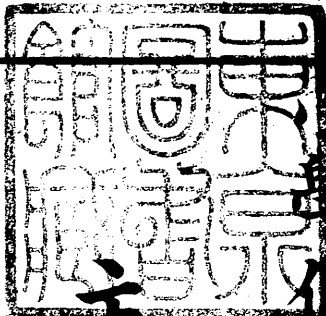
卷六

館藏書會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

7.60	
547	四

K120.1
6

明治十九年十二月廿五日内務省交授



小學修身鑑卷の六

平井參編次

主靜

身をささむるよは、おろを、おづかよ
することが肝要なり、これ、主靜をたつ
とむ、ゆるんなり、凡そ事靜よあらざれ
ば、成るまとなし、

○ 靜を主として、人極を立つ、

○ 人その心を靜定して、自ら、主

周子ノ
語

眞西山
ノ語

小學修身鑑

卷の六

平井參編次

宰と、做さんふとを、要す。

劉析子ノ語

○心ハ、安靜ならんふとを欲し、慮ハ、深遠ならんふとを欲す。

薛文清ノ語

同

○學ハ、靜なるを以て、本となし、常ニ、沈靜なれば、則、義理を含蓄するふと、深くして、事ニ應じ

諸葛武侯ノ語

同

○君子の行ハ、靜もつて、身ををさめ、儉以て、徳をやしなふ。

○夫れ、學ハ、須らく、靜なるべきあり、才ハ、須らく、學ぶべきなき

同

○學ニ、何らざれば、もつて、才をひろむるなく、靜ニ、非ざれば、以て、學を成すなし。

和平

和とい、やまらぐどいふことよて、平とい、たひらかといふことなり、やまらぐたひらかといふいふ、おこなひのただやゝなるおとをいふなり、兄弟やまらげば、その情をたし、夫婦たひらがざれば、その家おとろふ、

朱子ノ語

貝原益軒ノ語

○心平かよ、氣和ぢば、則言ふ、
○心平かみ、氣和ぐひ、おれ己を處し、人よ接するの、要なり、

同

○心氣和平なれば、則情意の偏僻なく、その物よ應ずるおと、忤をば、

同

○もし、和平おらざれば、則その行ふとおろ、頗僻おらざる者、をくなし、

禮記

○和順中よ積みて、英華外よ何

禮記

らはる、

○中心しむらくも、和がぞ、樂しまざれば、鄙詐の心、これよ入る、
○勝を、おのむものハ、かならば、争ひ、榮を貪る者ハ、必ぞ、辱めらる、

省心標

同

○内むつましきものハ、家道昌

え、外睦しき者ハ、人事濟る、

寛恕

寛とい、ゆるやるといふことよて、恕とい、おもひやりと、いふことなり、寛恕ハ、忠恕と、たをじことと、しるべし、

○萬事寛よしたるへバ、その福

自ら、厚し、

○人をせむるの心を以て、己を

古語

張子ノ

張子ノ語

責むれば、是なもち、道をつくす。
○己を愛するの心を以て、人を愛すれば、則仁を盡す。

同

○衆人を以て、人を望めば、是ぢはち、從ひやまし。

許平中ノ語

○聖賢を以て、人を望めば、則完人なし。

呂新吾續小兒語

○人を待つハ、豊なるを要す、自ら奉ざるハ、約なるを要す。

同

○己をせむるハ、厚きを要す、人を責むるハ、薄きを要す。

論語

○躬自ら厚うして、薄く、人を責むれば、怨よ遠ざかる。

○己を責むる者ハ、以て、人の善

許魯齋ノ語

許魯齋ノ語

を成すべし、

○人を責むる者ハ、まさふ、以て、己の惡を長ず、

謙讓

謙といへりくだることよて、讓といへり、
づることなり、おれハ、遜讓とひとし、
讓ハ、まへよ見ゆ、

薛文清ノ語

○凡そ事みな、まさふ、功を推し、

楊椒山遺屬

能を、人よ、おづるべし、一毫も、自徳、自能の意、ある處あらば、

○寧人よ、ゆるるも、人をして、我ふ、讓らしむる、おと、な、かれ、

薛文清ノ語

○己を、持てるよ、一の敬の字を、得、物ふ、接するよ、一の謙の字を、得よ、

薛文清ノ語

○敬もつて、己を持し、謙もつて、人ふ接せれば、以て、過すくなかるる處し。

呂新吾續小兒語

○人、譽むるよ、われ、謙せれば、また、一美を増す。

同

○自ら誇り、自ら敗れば、また、一毀を増す。

明太祖ノ語

○凡そ、人、善あるも、みづるら、不善あるべからず、自ら矜れば、善日、削る。

同

○不善あるらむ、みづるら、恕すべからば、自ら、恕をれば、惡日、滋す。

言心録

○志ハ、人の上よ出づ、倨傲の想

大學身錄 卷之三 金瓶梅 七 帛床問談

朱仁軌
ノ語

ふ阿らず身ハ人の後を甘んぢ、
萎蕪の陋ニ非ぢ、

○終身路をゆづるも、百歩を枉
ぢば、終身畔を譲るも、一段を失
えず、

敬義

敬といつゝしむことよて、義といひ、義理
といふことなり人のつゝしむべきハ

敬義なり、まもるべきも敬義なり、

易經

○敬もつて、内を直し、義以て、外
を方よしす、

蔡虛齋
ノ語

○直なるときハ、まをち、心よ
私なし、方なるときハ、則事理ふ
阿たる、

朱子
ノ語

○敬ハ、おれを守りて、かをしらざ

八
錦
朱
明
義

荀子

るの謂なり、義ハ、かきよ不ど六
して、宜キよかふふの謂あり、

○敬、怠よかつものハ、吉、怠敬よ
勝つ者ハ、滅ぶ、

同

○義欲よかつものハ、従ひ、欲義
ふ勝つ者ハ、凶、

禮記

○敬せざる六となのれ、儼とし

語孔子

て、思ふがごとく辭を、安定よせ
ふ、民を安んぜんのな、

語朱子

○君子ハ、敬せざる六となし、身
を敬するを、大なりとす、身ハ、親
の枝なり、敢て、敬せざらんや、

○凡そ事、須らく、六れ、敬をべし、
則ナよく立つ、わづかよ、慢心のま

バ事、日、よ、弊壞よおもむく、

思念

思念といおもふことなり、人ハおもふ
ふとだけきバたゞよそのなを事なる
阿たもざるのみならん、またその身も
何やうかるべし、

論語

○學びて、おもむきざれば、則、罔し、
思ふて、學むざれば、則、殆し、

註論語

○心よ求めば、故よ、昏くして、得

同

孟子

るふとあし、その事を習ふべ、故
よ、危くして、安からば、

○學ハ、その事を、習ふゆゑん、思
ハ、其理を、求むる所以なり、

○心の官ハ、をあたち、おもふ、思
へバ、則、之を得、思むざれば、則、得
ず、

語周子ノ

○思ハ、聖功の本よして、吉凶の機あり、

語程子ノ

○深く思わざれば、則、その道よ、造る處を得ず、

同

○惡を爲すの人ハ、おもふことを、知らざるよ、原づく、思ふ處と、阿れば、則、心悟る、

語孔子ノ

規諫

○人の己を信ぜん處とを欲せば、則、微しく言ふて、篤く、其れを行へ、

易經

○言を聞きて、信ぜざるハ、聰く、其の明かあらざるあり、

賤遵生ハ

○父兄骨肉の變よ處らば、從容

遊生八

なるべく、激烈なるべからば、
○朋友交遊の失は遇へば、割切
なるべく、優游あるべからば、

書經

○人を責むるハ、斯難き事とな
し、唯責を受くること、流るが如
くふらしむるハ、是惟難いとな
○心誠よ、色温よ、氣和ぎ、辭婉よ

薛文清
ノ語

韓愈
ノ語

して、必ずよく人を動あす

○傳は曰く、たゞ善人ハ、よく盡
言を受く、その聞きて、能く、これ
を、改むるを、謂ふあり、

同

○古の人目、みづゝら、見るハ短
あり、故よ、鏡をもつて、面を觀る、
智、自ら、知るハ短あり、故よ、道を

以て己を正す

改過

季文子ノ語

○過ちてよく改むるものハ民の上なり、

孔子ノ語

○能く過を補ふものハ君子なり、

程子ノ語

○子路入おれよ告ぐるよ過何

陳新安ノ語

るを以てをれば則喜ぶまた百世の師と謂ふ處し、

○程子子路を贊す學者之を師として以て身を修め過を補

んことを欲するなり、

○人生不幸よして過を聞かず

過を聞かむ則賢なる處し、

同

韓愈ノ語

真西山ノ語

朱子ノ語

○人その過を知らざるを患ふ
 までよ、おれを知りて、改むるよ
 と能わざるハ、こまき勇なきなり、
 ○苟も過を聞ふんと欲せば、但
 まさよ、一々、容れ受くべし、また、
 その虚實を計るべからば、
 ○過ハ、聖賢と雖無きよと、能を

大和俗訓

同

ず蓋過ハ、過誤の謂なり、その過
 多るよとを知りて、速よ、おれを、
 改むれば、則過あし、
 ○常よ、わが身を省みて、先づ我
 過を知るべし、既よ、過を知りあ
 ハ、速よ改むべし、
 ○君子の學ハ、専ら、わが身を省

ハ、過を省むべし、
 十四
 常春月

み人の諫を聞き用ゐ、阿やまり
を知りて、改むるを旨とし、

積善

積善といふ、おおく善行をおこなふこと
なり、韓文公も、一善い、をさめやまじと
いへり、善づまざれば、もつて、その名を
なほよたらさずといひ、知言といふべし、

三略記

○徳ハ、善を積むよ在り、禍ハ、怨
を積むよ在り、

易經

○善も、積まざれば、もつて、名を
為さよ足らず、惡も、積まざれば、
以て、身を滅ぼすよ足らば、

同

○積善の家よハ、必也、餘慶あり、
積不善の家よハ、必ず、餘殃あり、

訓 大和俗

○善を爲すよとハ、やましく、善を
行ひて、その名聞を、求めざるよ

省心
言

五常訓

といかたし、
 ○善を爲して、
 人の知る事と
 を求めざる、こ
 れを陰徳とい
 ふ、
 ○惡よハ趣き



朱子治
家格言

同

大和俗
訓

やをし故よおそるべし善よハ
 進みぶたし故ふつとむべし、
 ○善ハ人の見んことを欲する
 ハこれ眞の善ならず、
 ○惡ハ人の知らんことを恐る
 るハをなをちこれ大惡なり、
 ○善を爲すハ上坂をのぼるが

大學
朱子
訓
大和俗
訓
六

訓 大和俗

おとし、勤めざれば、爲しおたし、
○悪を爲すハ下坂をくだるが
如し、勤めざれども、爲しやまし、

勉強 忍耐

泰西古語

○天下ハ勉強忍耐なる人の所
有なり、

韓愈語

○業ハ勤むるハ精しく、嬉しむ

中庸

ハ荒む、

○人、一たびして、おれをよくを
れば、己、おれを百たびす、

同

○人、十たびして、之を能くすれ
ば、己、之を千たびす、

童子習

○他人、息ふとも、あまハ書を讀
み、他人、怠るとも、我ハ學を勤む、

トレク
グレク
ノ語

○人、一生の間、全く作用を止むることを得る、光陰ハ、何らざるなり、

ソロモ
ン王ノ
語

○貧乏の至るハ、旅客よりも速
ニ、武士よりも迅し、

慎
心録

○人の學を爲さや、歷年の久し
き、積累して、息まざまきバ、愚者と

朱子ノ
語

雖漸く、進みて、開明なるべし、
○その仁義禮智の心を動かし、
其、聲色臭味の性を忍ぶ、

泰西ノ
古語

○徐々として、行歩するものハ、
久しあれども、疲れずして、遠キよ
行く處とを得べし、

虚受

朱子語

○學問の道敢て自ら是とせば、
虚うして、人よ受くれれば、則自ら
得る處とあり、

呂氏語

○學のむじめまづ、心を虚うし、
氣を下_タを_タとを要す、まさよ、よ

虚受とい、おのれのあゝるをからよし
て、人のことごとをいれる處となり、おの
れのあゝるをからよせざれば、他人の
ふきことども入るの場所あかるべし、

説苑

く、天下の善を受く、

○常よ爲して置かず、常よ行ひ
て、休まざる者、故よ及びおたし、

國語

○士朝よして、業を受け、晝よし
て、講習し、夜よして、過を計り、憾
無くして、而して後、安よ即く、

張子語

○言、教あり、動法あり、晝爲す、

李氏ノ語

眞西山ノ語

同

とあり、宵、得る六と何里、息、養ふこと何里、瞬、存せること有り、

○學を爲むの道、常、卑遜よし、自ら下るを以て、心とあす、

○學を爲むの要、惟、志を遜り、時、敏するふ何り、

○凡そ、人の學、害、何る者ハ、驕

と怠とのみ、驕れども、すなはち、志、盈ち、善、入るべあらば、怠れば、則、志、惰りて、功、進むべからず、

志氣

志といふ、ろざしよて、氣とい、氣象なり、志氣とい、心志氣節なり、人の、六の世より、何里て、ことをなすよ、志氣が大切なり、志氣あまき、名もつて、たつべく、業もつて、なるべく、事もつて、とぐべし、佛帝那波烈翁ハ、不能の二字をみるごと

よむれをげづりさきしといへり、その志氣のたかきことおもひ見るべし、

ボツク
ノストン
語

○人、一たび、志を定めむ、その後、或ハ、死まべく、或ハ、成就まべし、決して、中廢を慮からば、

ヨング
ノ語

○凡そ、人、他人の、すてよ、做得たることハ、かならず、做得べし、

バウシ
ンノ語

○凡そ、爲すとあるの事、心を盡

ルスマイ
スノ
語

して、よく、おれを爲せ、

○凡そ、人、事業を成就するよハ、剛毅なる心志の力を以て、基礎と爲す、

ボツク
ノストン
語

○大人と、小人との別ハ、特よ剛毅と、剛毅ならざるとの、別のみ、
○剛毅の志よよりて、地球上、何

同

泰西ノ古諺

事よても能くし得らるべし、
○苟も事の成就せんことを望まばみづゝら往きて、おれをなまべし、

同

程子ノ語

○苟も事の成就せんことを望まざれば、他人よ、吩咐すべし、
○學者氣よ勝たれ、習よ奪をる

孟子ノ語

おとを為さば、たゞ、志を責むべし、

○彼も丈夫なま、我も丈夫あり、吾何ぞ彼を畏れんや、

徐傳長ノ語

○その才、何りと雖、其志なあれ、
バ、また其功を興すこと、能まば、
小學修身鑑卷の六 終

明治十九年七月十日版權免許

定價八錢

編者

東京府士族

平井三郎

本所區本所綠町三丁目十九番地

出版人

東京府平民

鹿島長二

日本橋區箱崎町二丁目十八番地

發行書肆

東京馬喰町二丁目一番地

石川治兵衛

千葉本町壹丁目四番地

石川代理店立真舎

福島縣福島南裏二丁目

石川支店

小學修身鑑

平井參編著

卷七

館藏書會百教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

